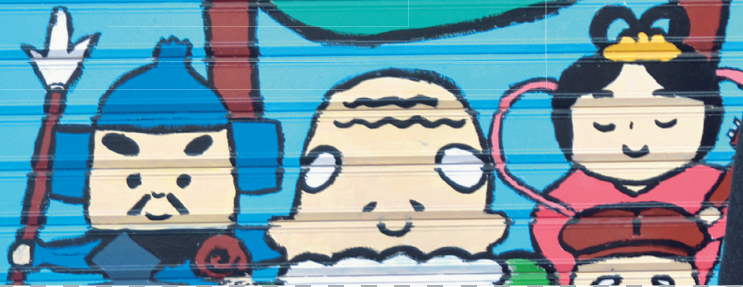
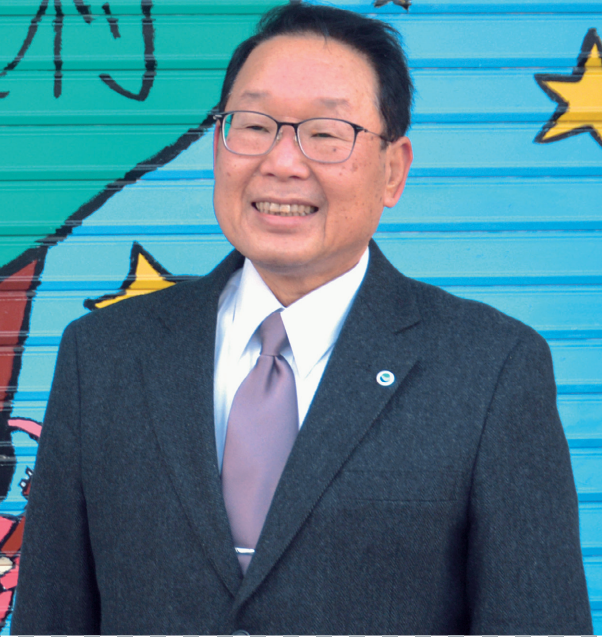


吉縁起村

鈴木 昌徳
Suzuki Masanori



吉縁起村ハートの樹まで
ウォーキングイベント



鈴木昌徳さん(吉)

2001年に津山ユネスコ協会に加入。県ユネスコ連絡協議会長、中国ブロックユネスコ連絡協議会長を歴任し、2021年12月に日本ユネスコ国内委員会委員に選任。地元では吉縁起村の事務局を務める。

真

MANIWA BITO

庭

人

国際交流から始まったユネスコの活動

日本ユネスコ国内委員に選任された鈴木昌徳さん。ユネスコに関わり始めたのは20年以上前です。その頃、美作高校で英語と進路指導を担当していた鈴木さんは、「生徒たちに、もっといろいろなことを体験してほしい」という思いから、オーストラリアのエメラルド高校に生徒たちと飛び込みました。国を超えた学校同士の交流が続いていく中、津山ユネスコ協会から「高校の取り組みを発表してほしい」と依頼され、これを機に鈴木さんは高校に「英語ユネスコ部」を立ち上げ、生徒たちと河川清掃などの活動を行いました。

ユネスコでは、国連がSDGsを採択する以前から、持続可能な世界を実現するための教育であるESDを10年間進めていました。ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、持続可能な開発のための教育と訳されます。「SDGsを支えるのは、ESDです。自ら考え、自分たちのこと、身の回りのこととして考えることができるような若い人たちを育てていかないと」、鈴木さんは話します。

吉縁起村が実践の場

鈴木さんは、吉地区の地域おこしを行っている吉縁起村の事務局も務めています。

「最前線で取り組むのは地域住民。私は吉での活動を、ユネスコの理念を実践する場だと思っただけです。鈴木さんは、吉縁起村の活動のことを話すと笑顔になります。「みんなで活動していると、1人暮らしの高齢者も参加してくれて、楽しいって言ってくれるんです。これって地域福祉だと思っただけです。鈴木さんは、ユネスコと吉縁起村という2つのステージで「誰ひとり取り残さない」ための活動を続けています。」

